



## 特集/市長、新春に語る

平成26年の新春を迎えました。  
 今年は総合計画の第2次推進計画※が始まる年となり、総合計画の目指すべき都市像「みんなが誇りを持てるまち四日市」の実現に向けて、市政各分野の重点施策をさらに進めていきます。  
 そこで、田中俊行市長に今年の市政を振り返りながら、今後の市政への思いを熱く語っていただきました。



語り手 田中 俊行 市長  
 聞き手 市民リポーター 谷口 舞 さん

※10年計画の総合計画に基づき、具体的な実施事業として、おおよそ3年ごとに推進計画を立てています。現在は、平成23年度から平成25年度までを計画期間とする第1次推進計画を実施中ですが、平成26年度から平成28年度までの3年間を期間とする第2次推進計画がスタートします



# 「みんなが誇りを持てるまち 第2次推進計画でさらなる前進を

### 産業活性化戦略会議の議論を生かし、産業活力を高めていきます

谷口 市長、あけましておめでとうございます。  
 市長 あけましておめでとうございます。  
 谷口 新しい年が始まりましたね。今日は気持ちを新たにお話いただければと思います。よろしくお願いします。



第2回産業活性化戦略会議(平成25年7月)

まず、四日市の産業についてお伺いしたいのですが。  
 市長 はい。本市は、高速道路などの道路網が整備され、国際貿易港である四日市港を擁するとともに、中部国際空港も近いという優位性を持っています。  
 こうした立地条件の中で、臨海部の石油化学コンビナートだけでなく、内陸部の半導体・自動車・電機・機械・食品など、実に多様な産業が集積しています。  
 ですから、この強みを生かして、より産業活力を高めていくことが、行政の役割だと思っています。  
 そこで、昨年3月に「産業活性化戦略会議」という組織を立ち上げました。ものづくり産業に限らず、商業・サービス業の再生、さらには次世代産業の誘発なども視野に入れて、現在、効果的な産業振興戦略を練っているところです。  
 その戦略をふまえて、本市が21世紀の産業都市モデルとなれるよう、新年度から具体的な政策として実行していきたいと考えています。

# 「四日市」の実現に向けて

### まちの発展には文化力も必要 継続して文化振興にも力を入れます

谷口 では、続いて文化についてはいかがですか？  
 市長 本市が魅力あるまちとして発展していくためには、産業の活力だけではなく、文化の持つ大きなパワー、つまり文化力がどうしても必要です。  
 そこで、私は、市長に就任して以来、文化振興に特に

力を入れてきました。平成24年を「四日市の文化力元年」と宣言し、「全国ファミリー音楽コンクール」や「郷土が誇る芸能大会」などの事業も、その一環としてスタートしました。  
 「継続は力なり」と言いますから、今年も、よりパワーアップして開催し、本市の文化力を磨きあげながら、全国に発信していきたいと考えています。  
 谷口 どのイベントも続けていきたいですね。



第2回全国ファミリー音楽コンクール(平成25年10月)



1月18日に開催される「郷土が誇る芸能大会」は3回目を迎えます

## 「災害に強い、安全・安心なまちづくり」を着実に進めています

**谷口** さて、続いて防災です。大規模災害などの備えについてはいかがですか？

**市長** 最近、巨大地震や津波に加えて、大型台風や局地的豪雨、竜巻など、自然災害の怖さを実感することが多いですね。ですから、あらゆる災害に備えて、防災予算も大幅に増やしていますし、きめ細かな防災・減災対策を進めています。

例えば、津波避難ビルに指定している小・中学校の校舎の屋上を避難場所として活用するために、屋外階段と屋上の手すりを設置したり、自家発電装置を屋上に移したりしています。

もう一つ事例をあげるなら、災害時緊急告知ラジオの導入ですね。このラジオを持っていると、災害の時に、自動的に電源が入って、最大音量で情報をキャッチすることができます。

災害時要援護者として登録されている高齢者や障害のある方、また、避難の手助けを行っていただく自治会長や地域の防災組織などに、3月中旬から無償でお貸ししていきます。

このような効果的な取り組みを早急に実施して、「災害に強い、安全・安心なまちづくり」を着実に進めています。

## 内部・八王子線の存続 乗って残そう公共交通

**谷口** 昨年は、近鉄内部・八王子線の存続について話題となりましたが、どうなりましたか？



**市長** 約2年前に、近鉄さんから、赤字が続いているので廃線も考えているとの話がありました。

しかし、内部・八王子線は、高校生や高齢者を中心に年間360万人が利用する、市民にとってかけがえのない公共交通です。そこで、17万人を超える存続を求める署名など、強い要望も受けて、近鉄さんと1年半もの長い交渉を続けてきました。

その結果、昨年の9月に「公有民営方式」、つまり施設を市が保有し、近鉄さんと市が設立する新会社が運行を行う形で、鉄道として存続させることに合意しました。

厳しい交渉の中で、一時は廃線もやむなしかと諦めかけたこともありますが、粘り強く交渉を続けた結果、近鉄さんに相当な譲歩をしていただき、合意が成立しました。

今後は、さまざまな手続きを進めていくこととなりますが、利用促進のための新たな取り組みも必要になっ

てきます。

市民の皆さんには、「乗って残そう」のスローガンのもと、大いに内部・八王子線を利用していただきたいと願っています。ぜひ、よろしくお願いします。



内部・八王子線

## 「(仮称)四日市公害と環境未来館」の整備

**谷口** 分かりました。私もできるだけ公共交通機関を利用したいと思います。続いて、環境に関してはいかがですか？

**市長** 環境と言えば、昨年、中国のPM2.5問題が大きな話題になりましたが、昨年4月に北京で開催された「日中大気汚染セミナー」では、環境省からの要請により、本市職員が講演を行いました。これは本市の環境改善の取り組みが高く評価されている表れです。

四日市公害は、多くの犠牲を払うことになりましたが、市民・企業・行政の懸命な努力により、大きく環境改善を果たしました。しかし、四日市公害から50年を経た現在、当時の様子を知る人は少なくなっています。

そこで、四日市公害の歴史と教訓を風化させることなく次世代に伝え、同時に、蓄積されてきた環境技術を生かしながら、環境先進都市を目指す四日市の姿を広く発信していくため、「(仮称)四日市公害と環境未来館」を博物館に併設する形で整備します。今年、いよいよ着工し、平成26年度中の開館を予定しています。

その際、開館20年を経て、設備が老朽化している博物館・プラネタリウムも連携させて、一体的にリニューアルすることによって、経費も削減しながら、相乗効果のある、本市ならではの魅力ある情報発信施設にしていきたいと思っています。必ず、より多くの方に来館していただけるものと期待しています。

もちろん、自然環境の保全や環境に優しい太陽光発電などの新エネルギーの導入促進にも、しっかり力を入れていきます。



トッキーの  
ワンポイント情報

### 小・中学校の屋上を避難場所に活用

避難場所としての機能の充実を図るため、屋外階段や屋上手すりの設置のほか、自家発電設備の屋上への設置を進めています。

既に、沿岸部の小・中学校(富洲原小・中学校、塩浜小・中学校、楠小・中学校の6校)は整備を終え、平成26年度中には、津波避難ビルに指定している小・中学校(全18校)の整備が完了する予定です。



津波避難ビルの表示ラベル



屋外階段



トッキーの  
ワンポイント情報

2

### 乗って残そう公共交通

内部・八王子線以外の公共交通機関においても、利用者の減少により、維持することが厳しくなっています。

公共交通機関は通勤・通学の目的だけでなく、子どもたちや車を運転できない高齢者、障害のある人など交通弱者といわれる人たちにとっても、日々の生活に不可欠です。人口減少・高齢社会が進む中、その役割は益々重要となってきます。日頃、あまり公共交通を使わない人も、「時には電車やバスを使ってみよう」という意識に立ち、まず公共交通機関を利用してみてください。そして、次の世代に、公共交通を引き継いでいきましょう。

## 「こども未来部」を設置して 子育て支援策を充実

**谷口** 私たちの世代としては、やはり子育てや子どもの教育が気になるのですが、子育てや教育についてはいかがでしょうか？

**市長** 子どもは社会の宝ですし、国や地域の将来を担う人材の育成が重要なのは言うまでもありません。

まず、子育て支援については、昨年4月に市の組織を改正し、「こども未来部」を設置しました。

健康部・福祉部・教育委員会の3部局に分かれていた子育てに関する業務を集約することによって、「こども未来部」だけで、子育てに関する相談や手続きができる体制にしました。

途切れない、体系的な子育て支援施策を実施することで、子どもを安心して産み育てられる環境づくりを進めたいと考えています。



子育てに関する窓口を総合会館3階の「こども未来部」に集約しました  
(写真は、こども未来部のこども未来課窓口)



トッキーの  
ワンポイント情報 **3**

市外から転入を  
検討している人に  
ぜひ、ご紹介ください!

### 郊外住宅団地(モデル団地)への子育て世帯の 住み替え支援事業を行っています。

この事業に関する問い合わせ先  
[都市計画課]

☎059-354-8194 FAX 059-354-8404

HP <http://www5.city.yokkaichi.mie.jp/menu79234.html>

## 市外から転入する子育て世帯を支援

**市長** もう一つ、子育て支援や人口減少・少子化対策、さらに団地再生を目的として、「郊外住宅団地(モデル団地)への子育て世帯の住み替え支援事業」を、昨年4月から行っています。

この事業は、市外に住む子育て世帯が、市内のモデル団地(11団地)の一戸建て中古住宅に住み替える際に、購入の場合はリフォーム費用を、賃貸の場合には家賃を補助するという制度です。既にこの制度をご利用いただき、本市に移り住んだ方もいらっしゃいます。

この事業では、子育て世代の支援や人口減少・少子化対策だけでなく、古い住宅団地が、子どもたちのにぎやかな声が響く団地として再生することや、空き家の解消にもつながることを期待しています。

## JAXAと連携した教育施策を実施

**谷口** 子どもに関することが、こども未来部にまとめられたのは助かります。教育についてはいかがですか？

**市長** 教育面の特徴ある施策としては、子どもの理科離れを防ぐために、市内の企業や宇宙航空研究開発機構(JAXA)の協力の下に、「四日市こども科学セミナー」を開催しています。

また、JAXAと連携協定を結びましたので、昨年は、JAXAの講師による専門性を生かした授業を小・中学校6校

### 〈事業を活用した人の声〉

我が家に子どもが生まれ、親の近くに転居を考えているときに、この制度を知って借家住まいを始めました。

家族が増えて手狭になってきたアパート住まいから、庭もある一戸建てに住むことができ、子どもものびのびと育っています。静かな環境ですし、駅も近いので夫の通勤にも便利です。近所の人たちも、子どもに優しく話し掛けてくれます。親の家からも近くなり、新米パパママの私たちにとっては、子育てするのにとても助かっています。



昨年8月、宇宙飛行士の古川聡さんが「四日市こども科学セミナー」講演のため来訪

で実施しました。平成26年度は実施校を増やし、さらに内容を充実させて、取り組みを広げていきます。

こうした取り組みによって、科学技術や宇宙に対する子どもたちの夢や希望が広がって、日本の科学技術を支える優秀な人材が四日市から育っていけばうれしいですね。

**谷口** 聞いているだけで、私もワクワクしてきます。

## 保健・医療・福祉の一体化 市立四日市病院のリニューアル

**谷口** 健康や福祉についてはいかがですか？

**市長** この分野についても、保健・医療・福祉の一体化した総合行政を行う目的で、健康部と福祉部を統合して

「健康福祉部」を設置しました。

この「健康福祉部」を核として、地域医療と地域福祉の連携強化、充実を図っていききたいと思います。

一方、市立四日市病院の病棟増築、既設改修工事がほぼ終了し、昨年12月に全面供用を開始しました。これにより、医療機能の高度化や療養環境の改善が図られました。(市立四日市病院については8ページで紹介しています)

## 消防と病院が連携 「救急ワークステーション」

**市長** ほかに、消防と市立四日市病院とが連携した「救急ワークステーション」が、今年4月から本格稼働する予定です。

これは、消防本部の救急隊員が救急車で市立四日市病院に出向き、医療的な処置技術の研修を受けながら医師や看護師と顔の見える関係を築く、そして、救急出動の要請があれば、すぐに病院から出動するといった取り組みで、患者さんの救命率の向上が期待されます。

**谷口** 分かりました。着々と誇りを持ってまち四日市が実現していきそうですね。市長ありがとうございます。今年も頑張ってください。

**市長** はい、全力で頑張ります!



トッキーの  
ワンポイント情報 **4**

### 「君たちが月探査を」JAXAの講師が授業

授業は、「月」をテーマに行われました。月を周回する衛星「かぐや」のロケット打ち上げシーンの映像に、「すごい!」「かっこいい!」と歓声が上がりました。

子どもたちは、「かぐや」による画像やデータをもとに、月の最新の姿や月の起源について学習しました。そして、宇宙ステーションで活躍するJAXA宇宙飛行士の様子や、「2030年以降の有人の月探査には、君たちが宇宙飛行士として…」という講師の言葉に目を輝かせていました。



児童に語りかけるJAXAの講師 (平成25年11月21日 常磐小学校)